

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770104218		
法人名	ひまわり介護有限会社		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	高松市鬼無町藤井126-1		
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果市町受理日	平成23年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhvu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770104218&amp;SCD=320&amp;PCD=37">http://www.kaigokouhvu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770104218&amp;SCD=320&amp;PCD=37</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成24年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心・安全の介護
----------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所は木造平屋一階建てで、陽当りのよい広いバルコニーには季節の鉢物を置き、くつろぎの場所として利用者に好まれている。周囲は田園の季節の移り変わりが体感でき、落ち着いた雰囲気を感じられる。ホームの理念は、利用者をありのまま受け入れ、今までの生活歴を大切に、その人らしく尊厳のある生活ができるよう、利用者や家族にも安心・安全の介護を心がけている。地元自治会に加入し交流を図りながら、管理者の温かく優しさの詰まった明るい家庭的な雰囲気づくりの思いを、職員が一丸となり取り組んでいる。職員のヒアリングからも管理者の気配りがうかがえる。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念のもと、個別化した支援に取り組んでいる。	基本理念は、過去の生活歴を大切に、その人らしく生活が営まれるよう、温かく明るい雰囲気づくりの支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方にお花を習ったり、畑仕事を見学したり、地域に溶け込むようにしている。	地域の方々の理解により、近所の方から園芸指導やドライフラワーの指導を受けたり、挨拶や会話を交わすなど、地域との交流がスムーズに取り組まれている。	事業所の行事等に、地域の方を招待して交流を深め、日常的に立ち寄りやすい雰囲気づくりを心がけるなど、より一層、事業所の理解が得られる工夫に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事に招待し、理解や支援をお願いする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方へ参加をお願いしている。	運営推進会議は、地元の自治会長、地区長、民生委員、地域包括支援センター、市職員が構成メンバーとなっている。会議では事業所の行事、活動状況、災害訓練、外部評価結果、苦情などの報告をし、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や地域包括支援センターとの連携をとっている。	運営推進会議以外に、行政担当者に金銭の負担の大きい利用者についておむつの相談や、在宅に戻る人の支援を相談するなど連携を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしない介護に取り組んでいる。	管理者、職員は「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解している。利用者の拘束を必要とするような動き、行為がある場合は、原因を軽減・解除するケアの工夫に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で話し合い、些細なことでも虐待につながる危険性を認識し、注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望を職員と共有し、運営推進委員会に反映させている。	運営に関する苦情や意見は、利用者との日常会話の中や、家族の面会時等に聞くなど、意見を積極的に聞く場面づくりをしている。一緒に話し合ったり、運営推進会議に提案するなど、サービスの向上に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会があるごとに、事業所のあり方、運営の方針を知ってもらい共有している。	毎月のミーティングで、職員の意見や要望を聞く機会をもっている。管理者は、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけ、聞き出す取り組みをしており、意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境に十分配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保し、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所の集いなどに積極的に参加し、情報交換、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より事業所に馴染むまで、細やかな配慮、見守り、声かけをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所見学からケアの取り組み方、本人と面談してケアの方向性を見極め、家族・本人と十分に相談しながら進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時から利用者本位を優先して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線で、家族のような関係づくりに心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の要望を大切にし、共に検討し合い相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は、できるだけ懐かしい場所や希望を選ぶようにしている。	外出などは、昔馴染みの懐かしい地域の行事や、場所の希望により出かけている。時には家族の協力を得ることがあるが、職員と馴染みのスーパーで買い物を楽しむなど、地域と接点を持ちながら関係を継続させる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションの時間を大切にせず、かわりが長続きするように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もこれまでの関係を大切にしながらフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らしていただくために、意思を尊重している。	日々のかかわりや声かけの中で、利用者の過去の生活歴を踏まえ、希望や不安を把握している。困難な場合は家族などから聞き、職員と本人本位に検討するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦を知り、なじみの暮らし方で過ごせているか把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とミーティングを重ね、介護計画、モニタリングに反映させている。	毎月のミーティング(カンファレンス)で、利用者や家族からの意見・要望を聞き、利用者がその人らしく暮らせるよう介護計画に反映している。3か月ごとに、介護計画の見直しを行っている。また利用者の状況変化や要望の変化時に、職員と話し合い見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的にならないサービスに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連絡を取りながらケアしている。	利用者・家族が希望するかかりつけ医の受診の送迎は、家族に依頼している。受診時は、利用者の状況記録を家族に持参してもらい、かかりつけ医と関係を築いている。職員は家族から受診結果を聞き共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とチームワークで介護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安定した状態を保つために看護は、介護の一部と位置づけ、かかりつけ医の指導を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの指針を持ち、話し合いながら取り組んでいる。	入居時に、利用者・家族の希望があれば看取りを実践できることを説明し、方針を共有している。また、症状が悪化した時は、医師から症状説明とともに看取りについて確認しており、入院を希望すれば、本人・家族の安心が得られるよう柔軟に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応をミーティングで指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等に参加している。	防火、防災規定の自衛消防組織編成表により、年2回の夜間火災想定避難訓練及び消火器の使い方の訓練を行っているが、地震の訓練にまでには至っていない。地域の方々の応援依頼を話しているが、具体化はしていない。災害時の非常食として、「水・高カロリーミルク」を備蓄している。	災害時に自治会の方に協力が得られ、避難誘導や避難場所の確認等、具体的な協力体制を期待したい。また地震時の訓練や職員へのマニュアルの徹底を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう配慮している。	職員は一人ひとりの尊重について、利用者 を尊厳ある人として、大切に対応することを 認識している。新人職員には、日々の業務 の中で、言葉かけに注意し、トイレ誘導時の 声の大きさにも利用者の誇り、プライバシー の配慮の重要性を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	利用者が希望や意思を表現できるような 雰囲気づくりや声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごせるように支援している。 その人のペースで生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	食器や食材に配慮して、楽しめるように配 慮している。	週3回、副食は高齢者向け惣菜屋から取り 寄せている。後は、利用者の希望で献立を 考えている。雛祭り・クリスマス等、季節の行 事の際は、仕出しを取ったり、時には回転寿 司の外食やバイキングなど、変化をもたせて いる。また、可能な範囲で、利用者が食事の 準備に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	体調、皮膚の様子、排泄の管理で、体調 維持できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	口腔ケアを励行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援にむけて声かけ、指導している。	職員は利用者の排泄パターンを把握して、利用者の様子から尿意等を敏感に察知し、自尊心に配慮しながら、身体機能に応じて手を差し伸べたり、声かけをして自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、飲み物、運動など取り入れ、できるだけ自然にと考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しめるように支援している。	入浴は1日に4人を、午前、午後に分け、ゆったりした計画で、1週間で巡回させている。一人ひとりに合わせ安全面に注意し、言葉かけの工夫を行い、不安、恐怖心のない入浴支援を行っている。浴槽での入浴が難しい利用者は、隣接の有料老人ホームの特別浴を使用し、ストレッチャーに臥床のまま入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日のリズム、スケジュールを自分で選択し、楽しんで過ごせるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について説明し納得して、理解していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味を活かし、生活の中に楽しみや役割が見つけられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重い病気の方や、不自由な方が多く、外出ができてくいが、疲れのない程度の散歩などをしている。	希望に応じて、スーパーでの買い物、近くの神社への参拝などを行っている。また、地域の行事には、利用者の個々の習慣や楽しみごとに合わせた支援を行っている。体の不自由な方や重い病気の方は、利用者に応じた取り組みが行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ができる方は自己管理、自己決定を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境整備と、居心地のよい場所、雰囲気づくりに心がけている。	利用者の日々の生活が、居心地のよい環境であるよう、明るさ・温度等に配慮している。ドライフラワーを使い作成した飾り物等を置いたり、外出時の写真を掲示するなど、生活感がうかがえる。居間のテーブルは、利用者が思い思いに自由に座り、自由に過ごせるように工夫・配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有場所では気兼ねなく過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好きなものなどを自由に使ってもらい、居心地よく暮らせるよう支援している。	居室には、ベッド、床頭台を整備している。利用者の必要に応じてオーバーテーブルを利用できる。利用者によっては、使い慣れたデスクや椅子等を持参しゆったりしたり、自分で作成した作品を飾るなど、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように支援している。できることは積極的にしてもらっている。		